

Hand-foot syndrome

多くはフッ化ピリミジン系薬剤(5-FU, 5' DFUR, UFT, S-1, カペシタピン)によって生じます。特にカペシタピンは発症頻度が 60%とする報告もあります。その他、ドキソルビシン、ドセタキセルなども注意が必要です。

症状は、手・足・爪の紅斑・色素沈着で、高度なものでは疼痛・腫脹・発赤が見られるようになり、水疱・びらんを形成することもあります。

治療として確立された方法はありませんが、休薬、保湿を目的とした軟膏の外用、ステロイド外用があります。また、全身治療としては、ステロイドの前投与、ピリドキシン(ビタミン B6)の内服が予防効果や症状緩和効果があると言われております。